

令和5年度群馬県畜産試験場研究成果発表会 開催要領

1 趣旨

群馬県畜産試験場において、日頃、試験研究に取り組んでいる様々な課題について、生産者を始めとしたより多くの県民の方にその内容を理解いただくために、研究成果発表会を開催します。

2 開催日時

令和6年2月7日(水) 午前10:00 ～ 午後4:00

3 開催場所

群馬会館 ホール (前橋市大手町2丁目1-1)

4 開催日程

受付:午前10:00 ～ 群馬会館ホール入口

開会:午前10:30 ～ 10:40

発表:午前10:40 ～ 午後3:30

パネル展示:午前10:00 ～ 午後3:30

5 発表内容

10:40～10:55	○ 第12回全国和牛能力共進会第8区(去勢肥育牛)出品対策について 畜産試験場 肉牛係 鹿沼 由香里
課題要旨	令和4年10月に開催された第12回全国和牛能力共進会(鹿児島県)の第8区出品対策として、県内繁殖農家と当場所の高能力牛(高育種価・高ゲノミック評価)を用いて出品候補牛の作出に取り組み、選抜した2頭の代表牛が好成績を納めたので概要を報告する。
10:55～11:10	○ 乳牛における低利用県産粗飼料の活用について 畜産試験場 酪農係 都丸 友久
課題要旨	県内産粗飼料の生産流通状況を調査し、流通の可能性のある粗飼料を検索した。併せて県内で生産された低利用粗飼料の給与試験を実施したので報告する。
11:10～11:25	○ 畜産試験場における黒毛和種産子の在胎期間と生時体重について 畜産試験場 繁殖技術係 下田 歩夢
課題要旨	平成19年～令和4年の間に、畜産試験場で生まれた黒毛和種産子の在胎期間や生時体重について、血統及び種雄牛別に調査を行ったので報告する。
11:25～11:40	○ 畜産試験場におけるゲノミック評価を活用した黒毛和種の改良について 畜産試験場 繁殖技術係 青木 寛道
課題要旨	畜産試験場ではアニマルモデルによる育種価評価に加え、ゲノミック評価を活用した黒毛和種改良を行い、(一社)家畜改良事業団へ候補種雄牛として払下げをしている。これまでに、当場で生産した福之鶴や福華鶴など4頭が種雄牛として選抜されたので報告する。
11:40～11:55	○ 黒毛和種における過剰排卵誘起処理の簡易化について 畜産試験場 繁殖技術係 六本木 梨果
課題要旨	牛の胚移植に用いる胚を効率的に採取するためには、牛への過剰排卵処理が必要となるが、その処理の省力化、簡易化技術の検討を行ったので報告する。
< 昼 休 憩 > 11:55 ～ 13:30	

13:30~13:45	○ サイレージ用トウモロコシにおける子実利用向け適品種の検討について 畜産試験場 飼料環境係 今西 耕平
課題要旨	輸入飼料価格が高止まりしている中、栄養価の高い子実のみを収穫する子実用トウモロコシへの関心が高まっている。現在、子実利用向けの専用品種が販売されていないため、サイレージ用品種の中から子実利用に適した品種を検討した。
13:45~14:00	○ 縦型コンポストから排出される臭気削減を目的とした熱交換器の効果について 畜産試験場 飼料環境係 吉田 健人
課題要旨	縦型コンポストから排出される臭気は、アンモニア濃度が 1000ppm 以上で 60℃程度の飽和水蒸気になる。そこで熱交換器を設置し、熱エネルギーを回収するとともに、排気中の臭気濃度及び総水分量の低減効果を確認した。
14:00~14:15	○ ピン培養試験における土壌中リン酸マグネシウムアンモニウム（MAP）量の動態について 畜産試験場 飼料環境係 藤澤 望
課題要旨	作物が利用する窒素は、主に硝酸態及びアンモニア態窒素であるが、MAP 態窒素の利用も分かっている。今回、ピン培養試験を 10℃、20℃及び 30℃で行い、それぞれの堆肥中窒素の動態を経時的に追跡した結果、堆肥の種類や培養温度により MAP の生成又は残存に差異が確認された。
14:15~14:30	○ 堆肥散布後の土壌分析に基づく施肥設計について 畜産試験場 飼料環境係 藤澤 望
課題要旨	一般に「堆肥ソフト」等による堆肥施用は、初めに堆肥の成分分析を行い、堆肥中の各肥料成分の不足を化学肥料で補完しているため、分析や計算の手間が多い。そこで、堆肥散布後に土壌分析を行い、土壌中の堆肥成分を考慮しつつ肥料成分投入量を決めることで、堆肥利用に係る手間を簡略化できるか検討した。
14:30~14:45	○ 群馬県産飼料原料を主体とした豚肉生産について 畜産試験場 養豚係 青木 圭
課題要旨	県内で生産される銘柄豚は、その多くが輸入穀物を原料とした配合飼料で生産されている。そこで、養豚県群馬を強くアピールできる豚肉の生産が可能かどうか、県産飼料原料を主体とした豚肉生産にかかる技術的課題や販売上の問題点について検討したので報告する。
14:45~15:00	○ 採卵鶏における換羽誘導（休産）しない長期飼育の有用性について 畜産試験場 養鶏係 後藤 美津夫
課題要旨	採卵鶏の育種改良技術の進展により産卵期間の長期化が可能になってきているが、換羽誘導をしない長期飼育との比較において、休産中に生じるマイナス収支がなく産卵期間を通してプラス収支を継続できることが最大のメリットであることが明らかになったので報告する。